情報処理学会 40 周年記念論文特集号の発刊に寄せて

富 田 眞 治†

情報処理学会は 1960 年に設立され，2000 年に 40 周年を迎えた．これを記念して，40 周年記念事業が企画され，その一環として 40 周年記念論文を公募することになった．40 周年記念論文編集委員会および同幹事会が構成され，1999 年 11 月 4 日に第 1 回記念論文編集委員会幹事会を開いて，論文募集の基本方針とスケジュールを決定し，2000 年 1 月に学会誌に会告として募集要項を公表した．公募対象論文としては，記念論文としての性格を考慮し，① 21 世紀へ夢のある方向性を与えうる論文，② 過去の長年に渡る研究を集大成した論文，③ その他 40 周年記念論文として相応しいと思われる一般論文とし，論文応募締切りを 2000 年 5 月 20 日，また 5 名による並列査読とした．2000 年 1 月以降，学会誌，論文誌，研究会資料などで応募を呼びかけたが，募集期間が短かったこともあり，応募件数が伸びず，やむなく応募締切りを 1 カ月程度延長した．最終的に応募された論文数は 35 件であり，2000 年 7 月 5 日の第 2 回編集委員会幹事会で，応募論文の分野分け，査読委員割付け，査読締切り，最終候補論文選考日などを決定した．授賞論文数は応募論文数が少なかったことを考慮して，5 件程度に修正した．また，複数査読者間の査読基準の統一を計るため,「一般論文としての採録ボーダーラインは 5 点と考えて評価して下さい」との一文を査読用紙に入れ，10 段階での評価とした．9 月 5 日を査読締切りとし，事務局は各論文の 5 名の査読者の評価点の平均を算出し，評価の高かった上位論文 10 件を分野幹事に送付することとした．9 月 13 日の第 3 回編集委員会幹事会で上位論文 10 件に新たに 1 件を加えた 11 件の論文について慎重に審査した結果，下記の 6 論文を 40 周年記念論文として相応しいものと判断し，10 月 20 日に開催された記念式典において表彰した．

基礎分野

(1) 「Speeding Up String Pattern Matching by Text Compression: the Dawn of a New Era」，Masayuki Takeda（九大），Yusuke Shibata（NTT），Tetsuya Matsumoto, Takuya Kida, Ayumi Shinohara（九大），Shuichi Fukamachi, Takeshi Shinohara（九工大），Setsuo Arikawa（九大）

(2) 「代用電荷法による非有界な多重連結領域の統一的な数値等角写像の方法」，天野 要，岡野大，緒方秀教（愛媛大），下平博巳（NTT），杉原正顯（名大）

ソフトウェア分野

(3) 「Software Project Simulator for Effective Process Improvement」 Shinji Kusumoto, Osamu Mizuno, Tohru Kikuno（阪大），Yuji Hirayama, Yasunari Takagi（オムロン），Keishi Sakamoto（SPI）

ハードウェア分野

(4) 「システム LSI 時代における新テスト技術」，杉原 真，安浦寛人（九大）

(5) 「DRAM/ロジック混載 LSI 向け高性能/低消費電力キャッシュ・アーキテクチャ」，井上弘士（九大/九州システム情報技術研），石原 亨（東大），甲斐康司（九州システム情報技術研），村上和彰（九大）

応用分野

(6) 「ワークフローからインターワークフローへ—企業間電子商取引の基盤をめざして—」，速水治夫（神奈川工科大），岡田謙一（慶大）

情報科学，情報技術の急速な社会普及を反映し，情報処理学会のカバーしなくてはならない領域も格段に拡がってきている．新しい領域の開拓や領域間の連携には新しい価値観の創生と多様な価値観の許容が必要である．情報処理学会の論文誌編集委員会と研究会でもこのことについてここ数年議論が積み重ねられ，その重要性が十分認識されるようになってきた．両委員会での協調体制も取られ，従来の基幹論文誌（ジャーナル）に加えて多数の研究会論文誌（トランザクション）が発行されるようになってきた．10 年後の情報処理学会 50 周年記念において，どのような新しい価値観を持った，社会にインパクトを与える授賞論文が出現するのか，今から楽しみにしている．

† 40 周年記念論文編集委員会委員長